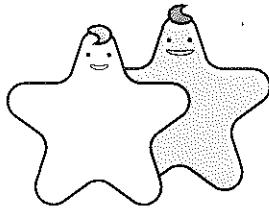


ひかりのなかで…



ひかり作業所法人化記念誌
ひかり作業所 9年のあゆみ





ひかりのなかで…

もくじ

思いやりの心（詩）	脇田 晴夫	
ご挨拶	社会福祉法人ふれんず理事長 明田 和久	1
ご祝辞	呉市長 小笠原臣也	2
ご祝辞	社団法人広島県精神障害者家族連合会 会長 門脇 博三	3
ご祝辞	呉市保健所 所長 香川 治子	4
新しい出発を祝う	小規模作業所連絡協議会 会長 中西 柚香	5
私の人生論	精神障害者地域家族会つばき会 会長 垣内 晴昭	6
ご挨拶	ひかり作業所運営委員会 会長 青盛 一真	7
がんばれ!! ふれんず!!	家族会員 川原 富子	8
振り返れば	家族会員・元保護者代表 奥川 忠	9
さらなる一步を	呉市手をつなぐ育成会 事務局長 渡辺 敏子	10
ボランティアを考える	ボランティア2年生 船本 安光	10
9年のあゆみ		11～21
Four Season（詩）	部谷 好昭	22
ひかりのなかで…（メンバー隨筆集）		23～28
理事・評議員一覧表		29
トピックス		30～31
ふれんずギャラリー		32～33
広 告		34～35

思いやりの心

脇田 晴夫



心には、頭・心臓・魂etc・・・がある

その全てを使って、思いやりの心が生まれる

人の気持ちを思う 心を思う 幸せを祈る

自分ではなく他人の心を思いやる

これは父の教えである



父は、いつでも思いやりの心を忘れてはいけないと私に教えてくれた

それを私は実践し、そして仲間がたくさん出来た

思いやりの心は、人と人とをつなげる橋のようなものだ



これからも、思いやりの心を忘れずに、仲間を大切にしていきたいと思う

これもまた思いやりの心である

心 ココロ こころ 子子呂 ここ口 こコロ・・・・





ご挨拶

社会福祉法人ふれんず

理事長 明田 和久

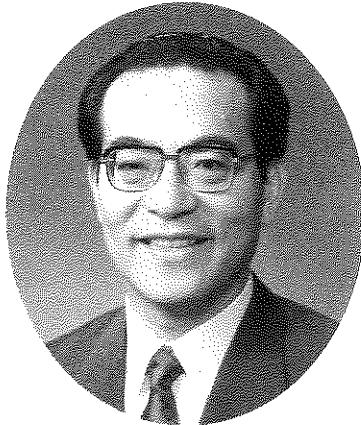
平成15年4月1日に社会福祉法人「ふれんず」が設立できたことは、広島県をはじめ呉市や多くの有縁の方々のご支援ご協力の賜物であり、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、この社会福祉法人「ふれんず」の源流は、平成6年12月12日「ひかり作業所」として、阿賀中央7丁目の民間アパートの1室で、メンバー6名からスタートしたのであります。今日に至るまで東西保健所のご指導のもと、家族の献身的な援助と指導員の熱心なサポートにより、今では28名のメンバーが通所するようになったのでございます。

精神障害者を取り巻く環境は厳しく、メリット・デメリットの思想が横行し、経済優先主義の陰で、自殺者（ここ3年連続3万件以上）、過労死、学校のいじめ、薬物乱用、動機のない犯罪など様々な社会問題が生じてきたのです。そして、物質的豊かさのみでは本当の豊かさは得られず、心の問題がいかに大切なことを知り始めたとは言え、精神障害者を正しく理解し、偏見がなくなったとは言えません。このような環境のもと、無認可の「ひかり作業所」の運営は困難をきわめ、メンバーが一生懸命働いても月に1万円を満たない収入への不満、保護者の親なき後のメンバーの行く末はどうなるのか、また、自立できる職場があるのか等の問題をかかえていたのです。

しかし、今日の社会福祉法人「ふれんず」の設立により、メンバーや保護者の抱いている大きな夢、グループホーム、地域生活支援センター等を実現するよう事業を展開して行こうと願っています。

そして、地域の皆さま方のご理解とご協力を得ながら大きく育てていく決意でございます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



ご祝辞

呉市長 小笠原臣也

このたび、「ひかり作業所」が法人化され、社会福祉法人“ふれんず”の小規模通所授産施設として発足されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

「ひかり作業所」は、平成6年12月に精神障害者の家族会「つばき会」の皆様の並々ならぬ熱意により、就労促進のための作業所として阿賀に設立され、活動の幅を広げながら、平成9年7月に現在のふれあい会館内に移転されました。

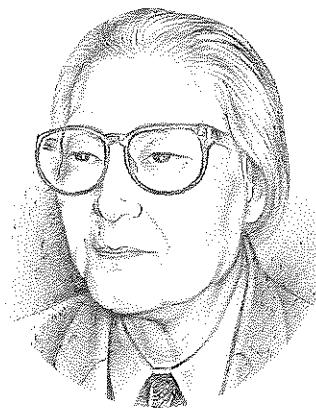
その間、常に一貫して「ひかり」という名のとおり、夜空に輝く星のように各人の輝きを大切にされた運営をなされ、清掃、内職、自主製品作りなどの作業を通して、障害者の諸能力の発達と社会参加の促進に大いに寄与されております。

これもひとえに、家族会の皆様をはじめ、施設職員、利用者、運営委員、地域が一体となったご努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

ご承知のとおり、21世紀は心の時代ともいわれ、心のバリアフリーが求められる中、障害者の福祉制度は、本年4月より、従来の「措置制度」から契約による「支援費制度」へと大きく変わるとともに、地域での自立と社会参加を支援する環境整備が求められております。そうした中、「ひかり作業所」におかれましては、法人化により運営基盤を強化され、より一段と創意工夫あふれる活動を展開していただき、地域に根ざした障害者の社会参加の拠点として成長されますよう期待いたしております。

呉市は、昨年の市制100周年を経て、新たなる100年に向けて歩み始めましたが、全ての市民が健康で安心して暮らせる優しさあふれるまちづくりに向けてより一層積極的に取り組んでまいりますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

終わりになりますが、社会福祉法人“ふれんず”小規模通所授産施設「ひかり作業所」のますますのご発展を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



ご祝辞

社団法人広島県精神障害者家族連合会
会長 門脇 博三

皆さんの作業所が、社会福祉法人の作業所になりました。関係された方々の方ならぬ努力と、労苦が実って、今日に至った「喜び」に敬意をもって心よりお祝いを申し上げます。だが、本当の労苦はこれからです。今日、一応行政上、知的、身体、精神の三つの障害者は、同等のレベルの上でそのサービスを受ける立場になっていますが、その実態は必ずしもそうとは言えません。精神障害者の歴史は、政治の無知、無理解の中で、行政が行われたため、当事者の人生は筆舌に尽くし難い歴史を刻んできました。徳川時代には、柱に縛っており、もし事故があれば、五人組（当時の最末端の社会組織）の責任を問われる行政の元にあったし、明治、大正、昭和の二十年代までは、座敷牢に閉じ込めて、入浴にも官憲が立ち会わねば、許可されなかつたのです。それが六十年前の敗戦を境にして政治、行政の変革がおこなわれれ、民主主義の定着などの条件が生まれて、収容、入院が主流でしたが、精神衛生法が制定され、その歴史の動きが少しづつ軌道修正されるようになった矢先、国際社会から先進国、近代国家だと言われる日本で、37万の人々が精神科に入院しているという非近代性の実態が批判されて、精神衛生法が保健法に変わり、福祉法が生まれ、精神も障害者の仲間入りをしましたが、その法が持つ理念である当事者の社会復帰、社会参加への道のりは決して平坦ではないのです。社会復帰事業への補助率の格差の違い（他の障害者の約1/2,1/3）を基準にする一種事業、二種事業の存在が未だに措置費から支援費に変化した障害者への福祉対策の行政からもオミットされている現実があるし、他の障害者は本法（障害や病気に対応する法律）と福祉法（社会生活に対応する法律）がそれぞれ別立であるのに、精神障害者の場合は、本法の中に福祉法が入っているという行政の元にあるという異があります。それは、今に至るも精神障害は社会で野放しにできない病気だという、保安上の理念が、行政上牢固として存在しているという事の証です。

私は、人間の体が一つである以上、それに伴う健康上の病気や障害はどの部分でおきても命に関わる怖さがあるのだから、社会で生きていくための法律、特に福祉に関わるものとの形態は一つでなければならないと思っていますが、それはさておき精神障害と他の障害との間に一線を引く行政の区別の姿勢が偏見差別を生む温床であることに私達は、注意を向けるべきであると思っています。池田事件、バスジャック事件のような事が起きると、統合失調症が犯人にあるかないかが問題になるのですが、国のその姿勢が私には大変不思議です。精神障害者が引き起こす凶暴な社会的事件といわれるものと、一般の人々が引き起こす事件との間に明確な区別ができるのだろうか。健常者（我々）が行う日常の生活の中で発生するトラブルから、心が、精神が病む事による異常から生まれる事件と、統合失調症の人達が引き起こす事件は基本的に異質のものであるという、精神疾患の持つ本質が仕分けされていない処に、問題があるのです。何故なら、統合失調症などを患有する人達は、本来生真面目で、正直で自分の視野からでなければ「もの」が見えない、人を押し退けて立身出世をしてやろうとか、人を騙したり、殺してでも自分の欲望を満たすような想念も野心も持つことのできないほど気の小さい善良な人が患う病気です。だから誰かに頼らねば生きていけない不安が、時に親、兄弟などへの暴力になるが、その現象が社会に拡大されることは絶対にない。それよりも恐ろしい事は、人生に絶望すると自殺することです。パン・ゴッホが親友ゴーギャンを傷つけ、やがて自殺したあの当時も、今日もこの病気の本質は、何も変わっていません。日本は、約一世紀、富国強兵の国策の基で国創りを行ってきた。それが帝国主義的な海外への侵略に手を染めるようになると、全ての障害者は邪魔者でしかないような国策が生まれ、障害者は身体も知的も精神も耐え難い過酷な扱いに晒された中で生きてきました。今日、政治も行政も、その方向を変えようとしている、私達はこの歴史から精神障害を解放できる時代を迎えています。私たちの「働きかけのパワー」がその鍵を握っています。家族会の老齢化が加速しています。作業所の皆さんだけでなく、関係する全ての社会資源に参加されているスタッフや当事者の若いパワーが、主導し、援助、共同して補ってくださることを心より願っていることを申し上げてお祝いの言葉に替えさせていただきます。



ご祝辞

呉市保健所
所長 香川 治子

福祉法人「ふれんず」の誕生おめでとうございます。

メンバーの方、ご家族の皆様をはじめ、指導員の皆様方、スタッフの方々の法人化に向けての熱い思いが実を結んだこと、心からお喜び申し上げるとともに敬意を表します。

平成6年12月に、阿賀の民間アパートで、ひかり作業所が開設されて以来、平成9年にはふれあい会館に移転され、平成15年には福祉法人化と活動を広げられ、ますます期待されます。

平成15年3月に策定いたしました「健康くれ21」は、ヘルスプロモーション（住民参画で個人、団体、行政が一体となって行う健康づくり）を基本理念として、一人ひとりの豊かな人生（自己実現、命輝いて生きる）を目指しています。

その中で、バリアフリーの項目では、交通機関のバリアフリー、道路のバリアフリーはもちろんのこと、「心のバリアフリー」をかかげています。

「ともに生きる」「共感」をキーワードに保健所も福祉法人「ふれんず」の支援をしていきたいと思っています。地域におけるネットワークづくりの提案など、これまで以上に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

社会福祉法人「ふれんず」のご発展と皆様方の御多幸、御活躍を祈念してお祝いとさせていただきます。

新しい出発を祝う

小規模作業所連絡協議会

会長 中西 柚香

ハナミズキの花が大分大きく見えるようになりました。この花は、本当は花ではなくて、萼というものであろうといつも思います。冬芽の時は、小さな擬宝珠型で小さくて堅いのですが、春が近くなると膨らみます。桜の頃が過ぎると、ちょうど花が咲くようにどんどん大きくなっています。花ではないのに本当に花のように見えます。

皆花に見えて、一つ一つはそうではないのもあって、ハナミズキも私には、内に秘めたものは、個性溢れる花のよう育つと思われてなりません。始めは薄緑なのに、だんだん白く、または赤く本当に美しく育っていきます。

「ひかり作業所」が、社会福祉法人として出発なさることが出来たと聞きました。本当に良かったなあと、私の立場として、「嬉しい」と心から思っています。

あまり、作業所を訪問することが出来ませんでしたが、時に、「今日は」とドアを開けますと、メンバーさんも、職員さんも、同じように満面の笑顔で迎えてくださったものです。机について静かに作業をしておいでなのですが、私どもの作業所は全く大騒ぎをすることが多いですから、「なんて静かな」と感心したものです。

ところが、全作業所が集まって、ポートピアパークで、合同行事をしたことがありましたが、まあ、その時のメンバーさんの生き生きと賑やかで楽しそうで、職員さんと一緒に、からかったり、からかわれたり、見ていてこっちまで笑ってしまうくらいでした。作業所の中がとても信頼しあった楽しい場所なのだと、感心していました。

体や、気持ちの具合が良くなくて出勤出来ない時もあるのでしょうか、出勤出来る時は、このように楽しい場所があつて幸せです。語り合う仲間がいる、信頼できる仲間がいる、頼りになる職員がいるということが、どんなに大切な心の支えになるかは、「ひかり作業所」の人達が一番理解できていることだと思います。

こんな時、法人化したということは、作業所の安定に、一步前進出来たということだと思います。法人化すると、親の傍から独立した生活をする場として、グループホームなど経営する力を、行政の方からも、法人格として認められたことなのです。これからは、もっともっと大きな夢を果たしていけるのです。

作業所の前のハナミズキのように、個性的に大きく大きく発展される社会福祉法人「ふれんず」でありますように、祈りとともににお喜びを申し上げます。

私の人生論

精神障害者地域家族会つばき会

会長 垣内 晴昭

私の住んでいる地域も高齢者がめだつ様になり、私が住んでいる班でも七十歳代が半分、六十歳代、五十歳代と続きます。その中にはいつもはつらつと生き生きとしている方と、ヨボヨボとしていかにも老人だと思われる方もいらっしゃいます。私は年をとってもいつも気持ちだけは青年のようにありたいと常に思っています。そのためには一日一日の生活のリズムを大切にし、食生活にも気を配り野菜と魚を多く食べるよう気をつけています。後ろを振り向かない、前、前と向いて生きること、また、若い人と対等に話しができるようにするために、多くの人の出会いを常に心がけ、年代に応じた話しができるように、そのために二時間読書することにしています。時には必要な記事を切り取って「ストック」します。その内容は政治、経済、スポーツ、社会、と幅広いです。また、「家族会等で話したことに対して、皆がどれだけ興味をもって聞いているか？」そのことを日記に書くことにしています。また、反省することがあれば反省し、記録します。

私生活においては障害者の三十三歳の娘とよい関係を築くために、今、パソコンを教えています。それと「朝起きると自分の顔を鏡をみながら思いっきり笑ってみなさい。」「人と出会ったら必ず挨拶をしなさい。」とあせらずに少しずつよい方向に向いてくることを信じてやっています。ひかり作業所ができて今年で八周年になり、心からお喜びお祝いを申し上げます。また、四月から社会福祉法人「ふれんず」として認可されたことも重ねて家族として二重の喜びを感じています。今から八年前の光景が目に浮かびます。最初のスタートは阿賀駅に近い場所で、古い木造のアパート、六畳と三畳の台所に、炊事場、六畳の間に机と作業台二つ並べるといっぱいいっぱいで、そこにメンバー六人と家族が音楽を聞きながら作業したことが懐かしく思い出されます。最初のころは資金難の連続で、苦難に苦難に耐えて、耐えてきて、また、保健所や地域の人々、家族の努力と皆の協力でできたことをいつまでも忘れないでほしいです。それができたからこそ、今日のひかり作業所があるのですから。

ご挨拶

ひかり作業所運営委員会

会長 青盛 一真

私の娘は、中・高時代から体調を崩し、親・子共々悩んで参りました。しかし、県の施設や作業所のお世話のお陰様で、階段を登るごとく、1歩1歩と回復に向かわせて頂いていることが感謝でございます。

ここ2年半程前頃から、近くの”ひかり作業所”に行かせて貰うようになり、優しい先生方やメンバーの方々との交流の中から、本人の居場所や生き甲斐を与えて頂いていることが又、喜びでもございます。そして、私もここ2、3年色々な学習会に誘って頂き、色々な勉強をさせて頂きました。いずれも大切な人生勉強と思わせて頂いております。そして時あたかも、法人化の道が示され、諸先輩方、同志の方々と共にそれらの学習、そして資金集めを軸とした運動を進めて参りました。とかく、障害に対する偏見が問題にされます。それはとりも直さず、親である私の無理解、私の人間性の至らなさの問題でもあります。幸い行政をはじめ、子供達を取り巻く地域の方々、社会の恩恵のお陰様で今回の社会福祉法人「ふれんず」としての出発をさせて頂きました。事情により若輩者の私も立場を与えられ、その責務の大きさを感じておりますが、皆様方と共に、子供達の為、明るい社会の為、何としてもこの法人を大きく発展させて行くことが、当面の大切な目標であると思わせて頂いております。

この出発を機に、私も懸命に努力する所存でございますが、皆様方の更なるご助力、ご協力を願い申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

がんばれ !! ふれんず !!

家族会員 川原 富子

社会福祉法人”ふれんず” 小規模通所授産施設ひかり作業所の誕生誠におめでとうございます。正直な所こんなに早期に法人認可が実現しようとは想像もつきませんでした。平成6年の初冬、阿賀駅裏の小さなアパートの一室から、6名のメンバーさんと家族有志3名でスタートしたひかり作業所も実績を積むことのみに専念しながら、細々とアットホーム的な雰囲気の中で頑張ったことなど想い出します。感無量の思いがいたします。当時、呉市内で精神障害者の通う無認可作業所（若椿作業所）が広管内にひとつあるだけで利用者も増加し手狭になったこともあって、西管内にもう一ヶ所作業所をと機運も高まり一部のメンバーのIさんや家族の思いもあって場所探しから始まりました。情報収集や電話での問い合わせなど色々とあたってみましたが、埠があかず不動産屋めぐりをすることに。アパートの場所探しも容易ではありません。結局、精神障害者と言うだけであっさり断られて、3軒目の扉を開ける勇気もありませんでした。縁あって、当事者がアパートに入居している事から、精神障害者に対する理解もあった大家さんとの出会いも持てて、とても運が良かったと安堵したものです。入居者のIさんの病状なども熟知されていて、1階の室をお借りする事になり、翌日から手弁当で大掃除。電球1個から整えていきました。多勢の方達の暖かい援助の中から生まれたひかり作業所いや”ふれんず”に暖かい援助のほほえみが注がれることを心よりお祈りしています。

がんばれ！！ふれんず！！

振り返れば…

家族会員・元保護者代表 奥川 忠

1994年（平成4年）12月ひかり作業所は若椿作業所及び椿会（家族会）のご厚意により、阿賀駅の海岸よりの質素な借家の一室において、その産声をあげた。それまでの経過としては、若椿作業所のメンバーが過密状態にあることは、かねてから呉精神障害者家族会である前述の椿会で話題にはなっていた。しかし、これほど、早く実現するとは皆、夢にも思っていなかつたのではないだろうか。それには、現在の保健所の庶務課長の近藤氏が当時東保健所の予防課長としてご尽力くださり、また、当時の若椿精神障害者無認可作業所の土手主任指導員のご努力があったことは言うをまたない。しかし、当時新設されるひかり作業所に指導員を雇うだけの資金はないのは勿論のこと、実績のあがるまでの6ヶ月間は一円の資金もないので家族がとりあえず立て替えて支払う以外になかったのである。上述したように指導員を雇う資金はないわけであるから、そのかわり家族が指導員のかわりをせざるを得なかつたわけである。責任者の主任として川原さんのお母さんが就任された。何もないところから出発するのであるから、資金的な問題だけでなく労力もすべて提出しなければならず、残業があれば休日でも川原さんは一人で出勤されて仕事をされるという、全く頭の下がる状態だった。その川原さん以外に大越当時の椿会会长が、毎日のように、焼山から来てくださるだけでなく、毎日のように、おかげを作つて持つてきて皆がいたいたものである。それ以外に吉川さんのお母さんも来ていただき、何とか作業所の休裁をととのえつつあった。最初はいかの串さしだけの仕事だったが、松浦さんは仕事のとりまとめ、部谷さんはおもしろいことを言ってくれたりして、本当にごやかな雰囲気であった。安っぽい機械に流れる「時代」の曲は今でも思い出される。便所は水洗でないので作業所の中までにおいがしみわたるようだった。又、休憩室もなく作業台と椅子でいっぱい横になろうとすると椅子の下で横になるしかない位せまかった。ところが先の山本課長さんのお世話で、若宮さんという現指導員さんを迎えたことはひかり作業所の運命を左右したといつてもいいほど画期的なよき人を得たものだった。そのうちに、山本課長他のご厚意により元海員会館の一室にひかり作業所は移転することができたわけである。ひかり作業所が阿賀にあった時の思い出として象徴的なものがある。作業所のリクリエーションとして、メンバー・指導員・家族が一緒に安芸の小須磨でバーベキューを作つて食べたことがある。その時に、先述の山本課長さんに来ていただき、一緒に楽しく過ごしたことがある。彼はわざわざ保健所の方では休暇をとつて来て下さったと聞いている。これは現在鳥取県全体として、メンバー・家族と保健所の三者の交流をやっていくと聞いているが、この作業所用のミニ版といえるのではないかと思われる。

さらなる一步を

呉市手をつなぐ育成会 事務局長 渡辺 敏子

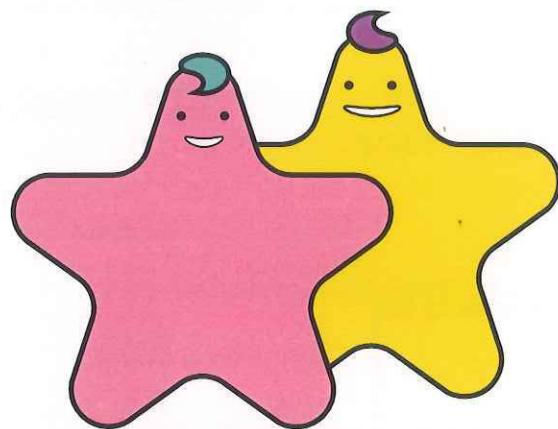
法人化おめでとうございます。春爛漫の香りの中で心ときめく報に接し、心からお祝い申しあげます。時を同じくして、誰もが社会の中で当たり前の生活ができるようにという理想を掲げての支援費制度が始まりました。この制度が眞の福祉の向上となり、誰もが幸せに暮らせる優しい呉地区になることを願っています。そのために、それぞれが出来る事から動いていかなければなりません。社会福祉法人「ふれんず」の誕生は明るい兆しです。この兆しがきらきらと輝く初夏の青葉のように成長していくことを心から願ってやみません。

ボランティアを考える

ボランティア2年生 船本 安光

一昨年十月、初めてひかり作業所を訪れ、皆さんから明るいあいさつで迎えられて、はや、一年半が過ぎようとしている。一週間に一度の割合でしか作業にこられないで、なかなか皆さんの顔が覚えられなかつたが、近頃何とか仲間に入れたような気がしている。つい、先月のこと、ボランティア活動についての研修会に出席してみて感じたことがあった。それは、ボランティアについての自分の考え方である。「自分はボランティア活動という名のもとに何をしているんだろう。」「わずか一週間に一度の作業の手伝いで自分が満足しているだけではないのか。」「これがボランティア活動になるのだろうか。」「本当に誰かのために少しでも役立っているのだろうか。」など…。次々と自問自答している自分があった。でも、作業所で皆と一緒に作業しながら、皆の話を聞いたりすることは楽しいし、時には、何か自分の経験や思いを話していることもある。また、人としての生き方について話し合っている場面もあった。話しの中で、私自身が回りの人から生き方について教えられることもたくさんあった。ボランティアについての自分の考えは少しもまとまらないが、「なんとか自分が健康で、あと何年でも続けられるといいなー」と思っている今日このごろである。また、法人化されたひかり作業所がこれからますます発展し、通所者皆が安心して生活できるようになり、障害者理解が広く市民にいきわたることを願っている。

ひかりのなかで…



ひかり作業所
9年のあゆみ

1994

平成6年

- 1994 6 · 作業所開設に向けて呉地域家族会「つばき会」と若椿作業所の支援を受けて準備に奔走する。
· 作業所の場所探し
· 開設に向けて 協力金1,000円をあつめる。
- 12 · 呉市阿賀中央7丁目5-42松野アパート内に開設。
· 家族指導員として川原富子さんと家族会「つばき会」会員の有志で運営にあたる。
· 名称を「ひかり作業所」と決定する。
· 広青年教育センターにおいて 来賓及び作業所関係者70名でひかり作業所開所記念式典をおこなう。
· (株)全珍の珍味のいかの串刺し作業開始 (加工費 1本30銭)
作業日 毎週 月木土 AM10:00～PM16:00



民間アパートの一室が
作業所兼憩いの場



全珍 イカの串刺し作業

1995
平成7年

- 1995 4 ・作業日 毎週 月火木土の4日となる。通所者8名となる。
・精神障害者就労促進事業補助金の適応を受ける。
- 5 ・市より在宅精神障害者共同作業所通所者交通費助成金が受けられるようになる。(料金の半額)
- 7 ・市内の小規模作業所連絡協議会でふれあいコンサートを企画、実行委員会の準備にとりかかる。
- 9 ・作業所指導員として一名採用し 作業日週5日に変更する。
・若椿作業所と合同で作業所見学アンダントのぞみを訪問する。
- 12 ・第1回ふれあいコンサート参加



第11回ふれあいコンサート

吳市の障害を持つ仲間たちが通う、施設・作業所がひとつとなり
元気な歌声を届けました。
毎年12月には障害者の日記念行事として取り組んでいます。



1996

平成8年

- 1996 3 ・若椿作業所と合同 山陰一泊旅行、まるべりー工房見学をする。
- 10 ・作業所指導員二名体制となる。
・若椿作業所と合同バス旅行 ドイツの森へ。
- 12 ・就労促進事業所の運営の安定化を図る目的で奨励金20万円の助成を受ける。
・第2回ふれあいコンサート参加



出雲大社にて

ひかり作業所として
初めての旅行が出雲でした。
若椿作業所と合同で
楽しい一泊旅行となりました。



ドイツの森にて

1997

平成9年

- 1997 3 ・若椿作業所合同 吉田町清風会施設見学
- 5 ・(株)井川製作所の内職作業を開始
- 7 ・吳市中通1丁目2-31ふれあい会館内へ移転
・作業所指導員三名体制となる。
- 8 ・ひかり通信毎月発行
- 9 ・クリニックほほえみ吳の駐車場の清掃作業の所外作業にとりくむ。
・国立吳病院内清掃作業（3時間）希望者がローテーションを組み週6日作業に入る。
補助指導員1名清掃作業部門のスタッフとして勤務する。
・バス旅行 倉敷チボリ公園美観地区へ。
- 12 ・第3回ふれあいコンサート参加
・ふれあい会館内交流餅つき大会を行う。



倉敷美観地区にて



倉敷チボリ公園



ふれあい会館内の3つの作業所で
合同もちつき大会。
つきたてのお餅を
おなかいっぱい食べました。



あつい日も寒い日も、
ほほえみの駐車場の清掃作業
頑張ってま～す。

1998

平成10年

- 1998 1 · 軽貨物自動車購入
3 · 施設見学 瑞穂の屋形を訪問 平山郁夫美術館を拝観。
8 · ボランティアさんによる月1回孔版画、ステンシル、絵手紙などの指導を受ける。
· 呉市内の作業所、施設が協力し栄町商店街の空き店舗をかりて2ヶ月間ふれあいショップをオープン。当番で自主製品の販売にあたる。
10 · 若椿作業所合同バス旅行 広島ニュージーランド村へ。
12 · 第4回ふれあいコンサート参加



月1回ボランティアさんの指導で
年賀状・暑中見舞ハガキづくりなど、
手づくりの楽しさを体験。



今は亡き、奥原香先生の孔版画の指導



作業所の軽貨物自動車

1999
平成11年

- 1999 3 ・小規模作業所活動活性化事業の国庫補助金でパソコンを購入。
 　・若椿作業所合同バス旅行 因島フラワーセンターへ。
 　8 ・家族、メンバーを対象に学習会（5回）を開催する。
 　10 ・バス旅行 チチヤス工場見学～広島現代美術館へ。
 　12 ・第5回ふれあいコンサート参加



調理実習風景



栄養指導を受けました。



お父さんの、
なかなかの
包丁さばきに
メンバーさんも
負けじと頑張りました。

パレアモアから
講師として、笹田先生を
迎えて !!



広島現代美術館にて

2000

平成12年

- 2000 2 ・ひかり作業所5年間のあゆみを紹介するため吳郵便局で「きらりん展」開催する。
5周年を記念して「きらりんめ～る」創刊号をだす。
- 3 ・バス旅行 しまなみ海道へ。
- 6 ・所長及び指導員3名の体制となる。
- 7 ・ポートピアパーク内に福祉ショップオープン。吳市内の施設、作業所で運営にあたる。
- 10 ・バス旅行 しまね海洋館アクアス&香木の森へ。
- 12 ・第6回ふれあいコンサート参加

吳郵便局で ひかり作業所5周年記念
“きらりん展”を開催。



ハーブの香りを楽しみました。香木の森にて！



“きらりん展”
多くの来場者が
ありました。



ポートピアパーク内に福祉ショップがオープンしました。
吳市内の作業所の手づくりの品々がここで買えま～す！

2001

平成13年

- 2001 3 ・作業所の法人化について話し合いがもたれ 法人設立委員会が発足。
・バス旅行 島根県ホテル川湯へ。（宮指導員さんの歓送迎会）
4 ・家族会による法人設立の為の資金集めとして 積立金を始める。
7 ・仕事づくりとして ふれあい会館内に自動販売機を設置し維持管理をする。
11 ・バス旅行 ドイツの森クローネンベルクへ。
12 ・第7回ふれあいコンサート参加



宮指導員さんの歓送迎会。
お別れは悲しいけれど
歌って、踊って、
今日は楽しい一日となりました。



記念品贈呈。
みんなで、色紙にちぎり絵をはりました。
この絵を見て、ひかりを思い出してね。
涙・涙・涙。



ゆうこ＆ジョージの名（迷？）コンビによる
コントタイム。笑、笑、笑。

2002

平成14年

- 2002 2 ・施設見学 にじのえき～広島市植物公園へ。

4 ・自助グループ活動「オープンスペースこもれび」を毎月第1水曜日に開く。

7 ・地域交流としてふれあい会館を中心にふれあい七夕祭りをおこなう。

9 ・県へ社会福祉法人設立認可申請書一式提出。

11 ・バス旅行 帝釽峡へ。

12 ・第8回ふれあいコンサート参加

・広島県社会福祉審議会社会福祉法人審査専門分科会の審査の結果 審査が通過したことを確認。

帝釈峠にて



A group of people are gathered around a barbecue grill outdoors. A man in a white lab coat is cooking food over an open flame. Other people are standing nearby, some holding plates of food. The scene is set outdoors with a body of water and hills in the background.

恒例、狩留賀で
バーべキュー

A photograph capturing a group of people dining at a restaurant. In the foreground, a man with glasses and a dark suit is looking towards the camera. The table is filled with various dishes, glasses of beer, and condiments. The background shows other diners and a bar area, creating a social and lively atmosphere.

2003
平成15年

- 2003 2 · 県へ社会福祉法人申請書最終案を提出。
3 · バス旅行 安佐動物公園～ガラスの里へ。
4 · 社会福祉法人ふれんずの県知事からの認可書を受理。
　　広島法務局呉支局へ登記申請をする。
5 · 社会福祉法人ふれんず創立記念式典をおこなう。
　　・社会福祉法人ふれんず創立記念誌を発行。



法人認可受理後、
作業所内でささやかな
お祝いの会を開きました。



社会法人ふれんず
第1回理事会・評議員会の様子。

Four Season

部谷 好昭

春になれば 草木も芽吹き
生きとし生けるもの 愛を語り始める
この地面の上で 命が誕生する
嗚呼 この素晴らしい地球よ

夏になれば 太陽も輝き
生きとし生けるもの 生を謳歌する
この地面の上で 命の芽が咲く
嗚呼 この素晴らしい大地よ

秋になれば 稲穂も実り
新しい命が 交代し始める
この地面の上で 命が結実する
嗚呼 この素晴らしい地球よ

冬になれば 大地も凍り
生きとし生けるもの 次の春を待つ
この地面の下で じっと我慢する
嗚呼 この素晴らしい大地よ

「そして再び春になって
生きとし生けるもの
愛を語り始める
この素晴らしい地球を大切に！」
「————」 r e f r a i n

ひかりのなかで…



ひかり作業所
メンバー隨想集

ひかりの中で



仲西 信敏

わたしは、孤独だった頃、薄明という言葉をよく使ったものだ。保健所のソーシャルを経て、ひかり作業所に通いだして、もう五・六年は経つ。回復期特有の爽やかさの中、作業所を通して、呉や広島を徐々に知っていった感じがする。当初はいろんな人々と話をしたかった。

就労支援を受けたが、働きず、今は、自助グループ「こもれび」をみんなとやっている。五十歳をひとくぎりしたいので、自助グループ育成の勉強会をそれまでに終わらせたい。そして、図書館の詩の会へまた行ってみたい。ひかりも法人化する。これを機会にどんなひかりにしたいか、もっとみんなが話し合えるとよい。今までのことから言えることは、無年金者をなくすことと、就労の受け皿作りを要望しないことには、いくらひかりのメンバーと指導員さんががんばっても、空転におわると、わたしには思える。ひかりは、所長、指導員さんの人柄のよさで、なんとかもってきたのだと思える。わたしも、自分で解決できない妄想を延々聴いていただき、日頃から感謝している。この度、ひかりが社会福祉法人「ふれんず」になるということだ。めでたいかぎりだ。自助グループがしっかり機能して、こもれびのメンバー制限の枠が、とっぱらわれる日を楽しみに、わたしの感想を閉じたい。明るいひかりの中で。

障害者という言葉



大原 恵子

みんな生まってきた時は、それぞれ顔が違うように、障害を持って生まれても一人ひとりの個性だと思う。私達心の病になった人達は生まれた時は健常者で、親に期待され、育てられた。親も夢を持ったと思う。しかし、病気になった途端に障害者と言われてしまう。他の病にかかった人達は障害者とは言われない。胃潰瘍の人達は痛いだろう。それは症状だ。私達心の病も独特の症状が出る。でも症状が出た時は、本人が一番つらい。親も苦しいかもしれない。でも世間に気兼ねして生きるのは間違いではないか。そして隠そうとする。恥ずかしいと思ってしまう。本人にとっては自分はそんな病になったのかと、ショックが大きいだろう。しかし、親次第だと思う。私の子供は心の病になったけど、こんないい所もある。そして優しい所もいっぱいあるのよと言って欲しいし、そしてみんなで助け合いながら社会生活を送ろうではないですか。ノーマライゼーションを大切に。

私の主治医曰く「一喜一憂」私も同感です。「先生、私は長い間平安を求めて旅をしてきたような気がします。」少し前に主治医と心理療法師に手紙を書いた事があります。

=今までが序曲なら、これからはいいオペラの終幕にしたいと思います=



私の所感

高松 重利

思えば、20歳をこえた頃から日本の事が心配になり、いろんなことをやってきましたが、最近この国の国民は、自分さえよければ良いという風潮で、こんな国民のために頑張ってきたのかと思い、大学を卒業して、船に乗っていれば良かったなと思う最近であります。まあこれまでやってきたことは、無駄にはなっていませんが、これからは、弱い立場の人達のために働いていこうと思っています。もちろん自分が人に迷惑をかけないように生きてゆくのも大変ですが、50歳になった私は、これから的人生をこういう風に考えています。ひかり作業所とは、一つの出会いがありました。所長さんはさばけているし、いつも明るく、楽しくさせてください。若宮さんは少しきびしくはありますが、思いやりのある出口さんや、課長とまではいきませんが、係長のような山田さんがおられ、いつも楽しく作業所に通っています。

私も実社会で、7・8年ぐらい働いたことがあるのですがひかり作業所の人達との出会いは、人生のいい出会いであります。この年になっても夢をもっていますが、その夢を実現させる準備段階として、この作業所のメンバーみんなが食べていけるようになるように、私も頑張ってみたいと思っている今日であります。簡単ですがひかり作業所が法人化されるにあたっての私の所感とさせていただきます。



ファイト!



ひかり作業所にお世話になって

波谷 政彦

私が、ひかり作業所にお世話になって約二年半がたちます。いろいろなことがありました。みなさまには大変お世話になりました。私もひかり作業所の皆様、一人ひとりに助けられたような気がします。ここに来なかつたら今の自分はなかつたと思います。ほんとうに楽しい毎日であります。今までやってきた経験を土台に、これからもいろいろなものを積み重ねて、とにかく前進していくらと思っております。人間年をとるのも、悪くないと思う今日このごろです。人は日に日に落ち着いてくるものです。しかし、毎日毎日を、大事にしながら生活しないといけません。たとえ一段の階段を上がってもいいのです。時には一段、時にはなにも上がらず、かと思えば、一日のうちに、二段も三段も上がる事だってあるでしょう。だから、人生はおもしろいと私は思っています。足をふみはずすことだってあるでしょう。しかし、またチャレンジする。そういう強さが、私たち人間だれもが必要ではないでしょうか。

さて、ここ、ひかり作業所の長所は何でしょう。やはり、なんといつてもアットホームな環境でしょうね。これによって私は、マイペースにやらしてもらい、常に鍛錬していくことができました。これからも、やはり鍛錬していくたいと思っております。そのおかげか、今では、自分のことを信じて、生活することができてきています。人間は、自分のことを信じられない、何もできません。やはり自分のことを信じてこそ、よりよい仕事もできてきます。だから私は、これからも、自分のことをより信じられるように努力していきたいと思っています。自分の力を信じて、これからも生きていきたいです。そのため、日夜力をつけて生活したいと思っています。ひかり作業所の皆さん、これからもよろしくお願ひします。

ファイト!



垣内 智子

ひかり作業所法人化設立おめでとうございます。私も負けずにがんばりたいと思います。



「ひかり作業所と出会って」

松本 伸二

少しおかしかった僕が、すごくおかしくなって病院に入院しました。まわりにはたくさんのおかしな人がいました。でも何故だか心が落ち着き、十年も長居してしまいました。すごくおかしな人はすごくやさしい人でもありました。ひかり作業所にはたくさんのおかしな人がいて、毎日、おかしな日々を過ごしています。おかしくなるとみんな笑います。だからひかり作業所は笑いで一杯です。でも作業所から一歩外に出ると、おかしなひとは変な人、アブナイ人と間違われます。だからなるべくおかしくても、おかしくないようなふりをして暮らしています。それがつらくなると自殺したくなります。

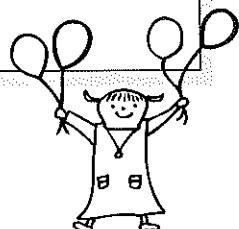
もしひかり作業所がなかつたら、一日、誰とも喋らず、笑わず、つらい日々を過ごさなくてはなりません。おかしくてもだいじょうぶと言ってくれる仲間は作業所にはたくさんいます。そんな仲間を大切にして、おもしろおかしく生きていきたいと思います。

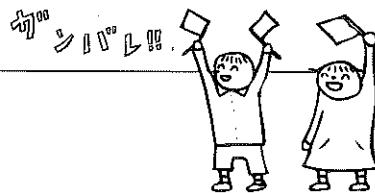


「ひかり作業所について」

楠木 淳子

4年前になるだろうか、その前の年の1年3回も入退院したため、主治医に保健所を通して、作業所へ行くようにすすめられた。すこやかセンターの職員と寒い中、保健所からふれあい会館まで歩いて行ったのをよく覚えている。1ヶ月の実習を経てメンバーとなり、パートタイムにつこうと活動するたび2回も入院してしまった。幸いにサポートしてくれるパートナーと出会い、九州・北海道と旅行にも行くことができ、今、作業所へは午前中だけ参加し、午後は自主活動している。今のような穏やかな日がいつまで続くかわからないが、作業所へ入り、ウツになった時は、朝、起きられず、つらい思いをした。躁になったら入院が待っている。作業所が法人化し、作業内容が充実し、年金と賃金を合わせて、最低限の生活ができるようになるのが、理想だが、むつかしいだろう。高齢化していく両親のことを思うと、今まで面倒見てくれた両親を介護できるようになったら、作業所も力になって欲しい。一人暮らしになつてもやはり力になって欲しい。詳しいことはわかりませんが、法人化になり作業所がよい方向に行くことを望みます。



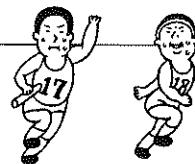


四年目に向かっての夢

木村 俊和

ぼくの四年目に向かっての夢は、就職です。ひかり作業所では、四年目に入ります。最初の一年目は、とてもつらかったです。一年目はみんなと慣れるのが難しかったです。二年目から、みんなとだんだんなれました。そして、みんなと親と妹がささえました。三年目は、仕事が楽になりました。

四年目にはいる今は就職をする夢に向かってがんばっています。就職したら休み以外は、休まずがんばって、やります。ひかり作業所へ来て本当によかったです。



今まで振り返って

M. Y.

私は、この法人化への作業所の移行の記念として稿を起こすことにしました。大学を卒業、就職だけはしましたが、この間に厚生年金の満期となる二十五年をきった三十五歳で社会へ復帰することを諦めました。その後、車でぶらぶらして二、三年を経てソーシャルクラブを先生に紹介していただき初めて会った保健婦さん、作業療法士さんの暖かい愛情に、初めて自分は病気で今まで病識がなかったのだと感じました。そして「病気になったのだから薬を飲まなければならないのだ」と思いました。父親が、肝臓を悪くしたときに、私に諭すように「病気になったのだから自分は、薬を飲む。」と言っていた事を思い出していました。以後私は、納得して薬を飲むようになり、週に一度のソーシャルクラブが大変待ちどおしい楽しい療養の場となりました。それでもその時だけは平和でも、他の日はやはり車に乗って外に出していました。温水プールへダイエットのために泳ぎに行ったり、スポーツセンターに行ったりする以外は、ぶらぶら遊んで、幻聴に悩まされ、周囲の車、人と戦争の日々でした。そのうちソーシャルクラブに積極的に参加するようになり、見る見る意欲が出てきて、少しずつではありますが進歩していくたと私は思っています。そのクラブには、毎週火曜日には、午後からだけ来られる方々があり、それが作業所に通っておられる方々なのだと教わり、私も行ってみたり紹介してもらって、電話番号を教えてもらいました。

後はみなさんご存知の（AM.9：30～PM.3：15位）で休日、水曜日、日曜日、火曜日半ドンの生活に入っていきました。最初はみんなの話している事がよく聞き取れなかったり、攻撃的な感覚に襲われたけれど、とにかく出口はあるという確信の下、力一杯頑張って続けて取り組み、しばらくしてみんなともコミュニケーションをとるのに苦労するということはなくなり、多少精神的にも強くなつたかなと思っていました。そして私事ではありますが、年に1回か2回の友達との旅行、そして作業所からの春秋のバスツアーを励みにし、今度は少しづつでもよいかから薬を減らして（私はみんなの平均よりもかなり多くの量の薬を飲んでいます。）いきたいと思っています。

強い薬なので体力の消耗、大変な肉体へのダメージを僅かでもよいから、緩和して、少しでも長生きしたいと思っています。PS。私は去年の九月で作業所通所が五年目に入っています。これからも、法人化で様子が変わってもメンバーと指導員さんとで力を合わせて、素敵な社会福祉法人「ふれんず」ひかり作業所にしていきましょう。





K. N.

ひかり作業所の法人化にむけて

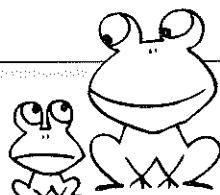
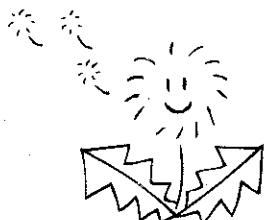
私は今年で49才になる壯年です。今年度から、社会福祉法人ふれんずになると聞いて少し心配になりました。職員の皆様には良くしていただき、メンバーの皆様には失礼な言葉を言った事などありました。病院に入院してた頃より自由があるけど、やはりどこでも社会です。まだ皆さんに甘えてる自分です。早く自立出来て皆さんと早く仲間になるよう心がけなければなりません。朝の体調調べや、働く場というよりもひとり一人が考えてみる時間など、ひかり作業所には家庭的雰囲気があります。また色々な企画などを考えたり、働きに来るだけでなく、くつろぎにも来れる所です。これから「ふれんず」となっても、心温まる所で皆さんのが健康で心地よい場所を提供してください。



石山 靖浩

ひかり作業所に通い始めた頃は薬が多かったせいか、横になって休むことが多かつたけれども、最近は横にならなくても作業ができるようになりました。最初はトライアングルの作業を避けて、いかの串さしの作業ばかりやっていましたが、最近は掃除にも出たり、トライアングルもできるようになりました。研磨剤が入っているトライアングルは針金と研磨剤をとるのが大変だけど悪戦苦闘してがんばっています。掃除に出るのは作業内容を変化させるので気分転換になるのでいいです。最近では、ひかり作業所に来るのがあまり苦でなくなりました。それから、作業所のメンバーと情報交換したり、話をして楽しいです。自分は土曜日しか作業所に来ないけど、作業所がない日は調子を合わせるのが大変です。去年から、指名を受けて昼の弁当の会計をすることになりました。最初は自分でちゃんと公金の計算・管理ができるかどうか不安でしたが、何回もやっているうちに自信がつきました。金額と金額の計算の結果が合うし、注文もちゃんとできるようになりました。この弁当の会計は公の金が合わないのがわからないとできないと思います。弁当の会計を応用する仕事の基本になると思うので、これからも続けていきたいと思います。また、これからは、薬も減って体もだんだんと動くようになってきたので、いろんなことをやっていきたいと思います。体の調子が悪いと、弁当の会計が出来ないので、できるということは調子がよくなつた証拠だと思います。また、皮膚病もだいぶん良くなつたのでいいです。自分は大目標をもつてるので、地理だけでなく、製造業のこともわからないといけないと思います。

ひかり作業所に週一日土曜日に通うのと、パレアモアを利用して、これからもますますがんばっていきたいと思います。



社会福祉法人 ふれんず

理事・評議員

役 職	氏 名	備 考
理 事	明 田 和 久	社会福祉法人 ふれんず 理事長 兼 ひかり作業所 施設長
理 事	青 盛 一 真	社会福祉法人 ふれんず 理事長職務代理 前 ひかり作業所 運営委員会会长
理 事	井 田 淳一郎	民生委員・児童委員協議会 会長 他
理 事	小 笠 原 洋 子	吳市赤十字奉仕団 委員長 他
理 事	川 原 富 子	元 ひかり作業所 運営委員会会长
理 事	中 川 榮 子	吳市教育会 理事
監 事	大 上 功	公認会計士、五番町小学校PTA会長
監 事	塩 谷 茂	NPO法人芸南たすけあい 理事 他
評議員	垣 内 晴 昭	地域家族会つばき会 会長
評議員	小 武 家 忠 則	中通1・2自治会 会長
評議員	仲 西 信 敏	社会福祉法人 ふれんず 通所者代表
評議員	松 浦 綾 子	地域家族会つばき会 監査
評議員	山 崎 光	元 ひかり作業所 監査
評議員	渡 邊 敏 子	吳市手をつなぐ育成会 事務局長
評議員	若 宮 八重子	指導員
	奥 川 忠	顧 問
	出 口 愛 子	指導員
	山 田 貴 子	指導員

ふれんどトピックス



ひかり作業所では、これまでみんなで楽しめるたくさんのイベントをしました。



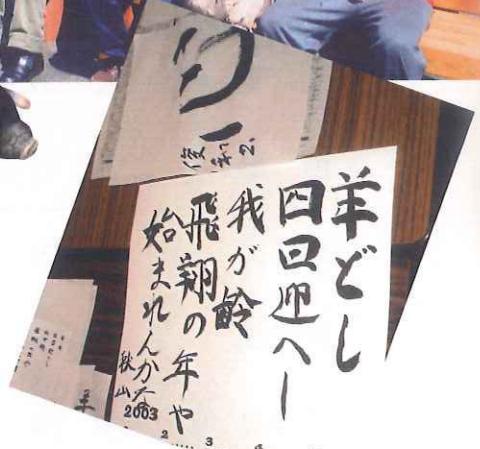
←↓ 安佐動物園にて



いらっしゃ~い…ZZZ



←↑ 新年を迎える、自助グループ
“オープンスペースこもれび”では、
それぞれの思いを書にしました。



↑毎年狩留賀でバーベキューをして楽しんでま～す！

いろんなイベントに参加しました！



←↓バザー



ふれあいコンサート↑→

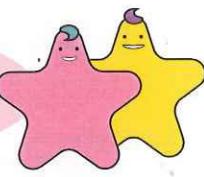


↑広島県障害者卓球大会において個人戦第2位の成績をおさめました。



↑メンバーが“シンポジスト”として参加しました。

ひかりんすゞギャラリー



ひかり作業所では、芸術活動をしておられる先生方のご厚意により、ご指導していただきながら作品の制作をしています。







医療法人 緑風会

ほう ゆ う 病 院

〒737-0001 呉市阿賀北一丁目14番15号
TEL.0823-72-2111 FAX0823-70-0025

ほうゆう在宅介護支援センター

TEL.0823-70-0335 FAX0823-70-0339

ほうゆう居宅介護支援事業所

TEL.0823-70-0335 FAX0823-70-0339

ほう ゆ う 訪 問 介 護 事 業 所

TEL.0823-70-0672 FAX0823-70-0339

邦 友 ク リ ニ ッ ク

〒737-0051 呉市中央一丁目4番2号
TEL.0823-23-2111 FAX0823-23-2113

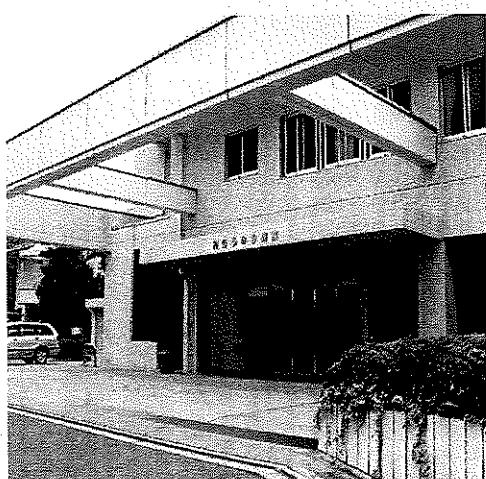
精神障害者地域生活支援センター みどりの風

〒737-0001 呉市阿賀北一丁目5番12号
TEL.0823-75-2255 FAX0823-75-2266

精神障害者福祉ホームB型 グリーンホーム

TEL.0823-75-2255 FAX0823-75-2266

地域から信頼される
脳の総合病院を目指します。



ほう ゆ う 病 院 信 条

1. 私たちは誠心を持って、精神障害者の医療効果をよりいっそう高めるよう奉仕します。
1. 私たちは愛情を持って、精神障害者が一日も早く社会人として生活できるよう協力します。
1. 私たちは力をあわせ、各自が精神保健福祉的自覚に立ち健康で明るく住み良い社会になるよう努力します。



- ステン
- 絵筆金属
- メッキ

株式会社 井川製作所

〒737-0134 呉市広多賀谷3丁目5-18(工場)

TEL.73-7272

FAX.74-5444



コカ・コーラ ウエストジャパン株式会社

〒737-0154 呉市仁方桟橋通13-45 TEL.79-5300 FAX.79-0811

【本社】福岡市東区箱崎7丁目9-66

ひかりのなかで…

ひかり作業所 法人化記念誌

ひかり作業所 9年のあゆみ

2003年5月23日発行

発行……社会福祉法人ふれんず

〒737-0046 広島県呉市中通1丁目2-31

ふれあい会館1F

TEL.FAX.(0823)23-8676

編集……若 宮 八重子

印刷……ナルド工房

〒737-0903 広島県呉市焼山西2丁目6-17



社会福祉法人
ふれんず

〒737-0046 広島県呉市中通1丁目2-31
ふれあい会館1F
TEL.FAX.(0823)23-8676